

高校生が見た 中大の4日間

「インターンシップ」——学生が企業で働くこと
によって、自分に合った職業を見つけたり、社会で
働く意欲を高めたりする制度である。しかし、中央
大学ではなんと「キャンパス内でのインターンシッ
プ」なるものが存在する。それは高校との連携を進
める商学部が昨年からはじめた、インターンシップの
ことである。高校生の目には「4日間の大学生活」
がどのように映ったか。（学生記者・渡辺久美子）

今回は埼玉県立の伊奈学園総合高
校、東京都立の晴海総合高校、飛鳥
高校、神奈川県立の神奈川総合高校、
千葉県立の幕張総合高校の5校、計
24人が参加した。クラス分けはAク
ラスが3年生、Bクラスが1、2年
生の混合クラスとなった1日4限の
授業を7月28日から8月1日まで
（日曜日を除く）4日間行い、1限
から3限までを4人の先生が日替わ
りで授業を行った。

授業はすべてゼミ方式で、日高ゼ
ミでは「フォードの経営に学ぶ」と
いうテーマを取り上げ、企業経営の
近代化に大きな影響を与えたフォ
ード自動車の企業経営の仕組みにつ
いての授業だった。横倉ゼミの授業は
「パソコンによるファイナンス統計
への入門」というもの。

また、三浦ゼミは「ケースで学



授業を神妙に聞く高校生

「討論、とても刺激的」 生徒も昨年より活発

「ぶ消費行動分析とマーケティング戦略」と題し、半額バーガーで成功を収めたマクドナルドなどを事例として取り上げた。そして山本ゼミは「貿易取引の実践とコミュニケーション」。

そのほかの体験授業として、大学
生協の環境保護への取り組みの話
を聞いた。マクドナルドの店舗戦略
の様子を見学したり、図書館を
実際に利用してみた。授業中の彼ら
をのぞいてみると、わからないこと
にはきちんと質問をし、先生たちは
丁寧に答えるという場面が多かった。

最終日の4限は高校生会員が集ま
り、3つのテーマで発表を始めた。
1つ目はそれぞれの代表者が自分の
学校を紹介するというものだ。各
校ともユニークな学校で、その特色
を面白く話すので教室は終始、笑い
声に包まれた。

2つ目は出席者全員が授業の感想
や大学についての意見を発表した。
伊奈学園総合高校3年の鈴木一也君
は「大学の講義がどんな感じかを
知ったことは、これからの大学選
択に役立つと思います」。同校2年
の小林千恵子さんは「最初は大変だと

思いましたが、終わってみるとアツという間でした。友だちができたことがうれしかった」と話してくれた。

飛鳥高校3年の矢代真弓さんは「初めての経済やコンピュータは、とても難しかったですが楽しかったです」。同校2年の小川麻衣子さんは「三浦ゼミで」いろいろな考えを持った人と討論したことが刺激的で、大学へ進む気持ちが高まってきた。また、晴海総合高校1年の山日有史君は「大学の授業って、無愛想な先生の退屈な授業を受ける、と

いうイメージでしたが、実際は先生たちはとても親切でした」と、これまでの大学の見方を変えたようだった。

中央大学全体の感想は「学食が安くておいしい」「キャンパスがとても広い」という多くの生徒が持っていたようだ。

3つ目のテーマは、授業で心に残ったことを班ごとに発表。中大生協の環境への取り組みに感激したことや、授業中に先生が話した面白い話しについて語った。

インターンシップ 活用理由も多様化

この話し合いには、昨年のインターンシップに参加した2人の先輩も出席した。そのうちの1人、商学部1年の蓑輪裕二君は「授業は大変だけれど、先生はいい人ばかり」と、後輩たちにアドバイスしていた。

司会を務めておられた酒井先生に昨年との違いについてコメントを求めたら、「ことしの生徒たちは、昨年の先輩から、ある程度インターンシップの輪郭を聞いたうえで参加したせいか、昨年以上に活発でした」

とおっしゃった。

今回は大学進学を希望しないが、大学の雰囲気を経験したくて参加したという生徒もいた。インターンシップ活用理由も多様化してきたようだ。しかも、就職難の時代が続く以上、自分のやりたいことを早く見つけることは大切である。それだけに、こうした高校生のキャンパス・インターンシップのあり方は、ますます意味をもってくるように思われる。

後楽園キャンパスで「小・中・高校生向け科学実験教室」を開催

理工学研究所は、各地の科学系博物館、大学、企業、電子情報通信学会と協力して、小・中・高校生たちが最先端の科学技術を実体験する教室を全国各地で開催しています。内容はおもに“エレクトロニクス・情報・通信”で、最近話題のITを支える分野です。

今年度、中央大学後楽園キャンパスでは次の日程で科学実験教室を開催します。対象は小学校高学年～高校生です。弟さん、妹さん、学校の後輩にぜひ声をかけてみてください。

Aコース：コンピュータで〇〇する

11/3(土、文化の日)10:00~15:15

辻井教授講演／牧野助教授『コンピュータで描く CGって?』／築山教授『コンピュータはコンピュータで設計する』

■募集人数：25名

Bコース：人を支える科学技術

11/4(日)10:00~15:15

田口教授講演『ビュッフォンの針の原理を

用いて複雑な線図形の長さを測定する話』／稲葉教授講演『火の玉でゴミ退治』／研究室見学『コミュニケーションを支える 電波ってなに?』、『人のかわりに ロボットってなに?』

■募集人数：20名

■参加申込み方法：ハガキ、FAX、Eメールのいずれかにて参加希望コース(両方のコースに参加することもできます)参加者氏名(複数の場合は全員(引率者含む))、学校名、学年、連絡先住所、郵便番号、氏名を下記までご連絡ください。折り返し参加証をお送りいたします。

■申込先：理工学研究所事務局

〒112-8551 文京区春日1-13-27

TEL. 03-3817-1679

FAX. 03-3817-1677

E-mail: tise@tamajs.chuo-u.ac.jp

URL: http://www.ise.chuo-u.ac.jp/

TISE/index-j.htm

11月3～4日 お待ちします